https://collective-music.com/

PRESS COLLECTIVE

— spring 2025 —

collective vol.51
24th May 2025
@event space 雲州堂

edit:tawaki **text**: tawaki, yu, Itaru Wakui, KMA aka Kengomatsui **design**: yukiokimura.com

Interview

ENE-LOOP インタビュー

51回目のcollectiveでは「電池グルーヴ」や「アーバンライナー」など大阪を拠点にユニークなパーティをオーガナイズするENE-LOOPをゲストDJにお迎えしました。以下にご紹介するのは2025年5月9日に実施したインタビューです。

——ご出身は?

福井の敦賀市です。同居していた叔母が学生の頃ですが堀内孝雄のバックでピアノ弾いたりとかしていた人で。家にスティービー・ワンダー、スライ&ザ・ファミリー・ストーン、ジミヘンとか叔母さんのレコードがあって。

——じゃあ、その頃にはレコードに触ってた?

そうです。実家にデカいステレオセットがありました。大学入学のタイミングで大阪に暮らすようになって。大学のサークルにニューウェーブ好きの先輩がいて。その人に誘われてイベントやることになって。「レコード5枚あればいけるやん」って言われて。

——それがDJの始まり?

ですね。叔母にもらった何枚かと修学旅行で買ったストーンズのベスト盤。

——高校生の頃は福井のレコード屋に行ってたんですか?

福井にレコ屋はなかったんです。でも修学旅行の時に「オマエら(同級生)とは違うんだぜ」って雰囲気を出したかったわけですよ。それでカッコつけて何も分からないのにストーンズのレコードを買って。でも結果的に今も持っているんですよ。。

——大学生の頃に漁っていたジャンルはどの辺で?

ファンクですね。いっときはスピリチュアルジャズも。修学旅行でストーンズ買ったのと同じテンションでイキりたくてスピリチュアルジャズに傾倒して。ほんまは良さをよく分かってなかったんですよ。分かりたくて買っていたような。

——DJを始めた時からENE-LOOPという名前だったのですか?。

ENE-LOOPになったのは「電池グルーヴ」っていう野外パーティを始めてからです。

——先日お邪魔した電池グルーヴ、開放感があって楽しかったです。電池駆動のサウンドシステムも魅力的で。

来る人たち各々の楽しみ方があってクッキングセット持ってきたりとか、コーヒー自分で入れて飲んだりとか。

——「電池グルーヴ」はいつからですか?。

12年前なんでもう2013年ぐらいじゃないですか。今、マンガンの名義で一緒にやっているDJがコロムビアのポータブルのレコードプレイヤーを買ったのがきっかけ。最初は難波宮で試したんですけど虫が多くて。一升瓶持って行って酒盛りしながら針を置いて音楽を聴くっていう感じで、ギターアンプに繋げて音を出していました。その時は電池グルーヴというイベント名でもなかったし、僕はENE-LOOPでさえなかったです。その後、中之島公園でやるようになってからENE-LOOPになったんですよ。電池グルーヴは役所に許可を取ってやっているわけではないので名前を隠してやろうと。DJにはマンガン、水銀、アルカリ、リチウム、単四といった名前をつけて。単四は単三に名義が変わりました。彼は高校生ですけどすっかり売れっ子ですよ。

——この前の電池グルーヴではどんな感じの選曲を?

ジャズファンクとかフュージョンとかを7インチで。それに打ち込みのブレイクビーツとかダブとかを被せながら。

——ジャンルに拘泥する感じではない?

時々の興味ですよ。ずっとカレー食べてたらうどん食べたくなったりとか、みたいな。

——「アーバンライナー」というパーティについても教えてください。

心斎橋の夜來香(イエライシャン)でやっています。主催はもともと僕じゃなくて、兄yan(ニイヤン)って人。彼がUNIONでシティポップとかをかけていて、それのゲストで僕が2回ぐらい呼ばれて。その後UNIONがなくなって今の水ノ音に変わる時に「アーバンなものばっかりかけていこう」となって2人で始めたんです。でもコロナになってイベントできなくなって、その間に兄yanの本業が忙しくなって。それで今のメンバーを誘ってやり始めて。アーバンライナーはコロナ前からだから、まあまあ長いですよね。。

——無類のプリンス好きともお伺いしています。

めちゃくちゃ好きですよ。最初に「フォー・ユー」っていうファーストアルバムを買ったらすっごいメロディーでええやんってなって。北浜のエスカペという店でプリンスの追悼イベントを始めて5〜6回やっています。2週間ほど前にはここ(上腕)にプリンスのタトゥーを入れたんです。

——ちょっと太ったプリンス、めっちゃ可愛いじゃないですか。

お世話になっている彫り師さんに年に1回、プリンスを彫ってもらおうと思っていて。プリンスが埋まってきたらラブシンボルを彫って「実はプリンスなんですよ」ってやろうかと。

——最後に次の「電池グルーヴ」の案内をお願いします。

「電池グルーヴ」は4月、6月、8月、10月の年4回開催しています。次は6月20日(日)の13〜20時。場所は中之島バラ園の東の先っちょです。

インタビュアー: yu、Itaru Wakui、tawaki、楠田行展

column

推したい魚（5〜6月編）

yu

食材の旬を意識しながらの買い物は楽しく、多少体が疲れる季節であっても旬の食材たちがなんとか乗り切ろうという気にさせてくれる。ちょうど今は筍の季節が終わって少し名残惜しい気持ちになっているところである。筍の旬真っ盛りの頃は定番料理の若竹煮に合わせ、魚屋では狙いすましたように新わかめが出回っていた。せっかくなので今が旬の魚をご紹介したい。

アジは稚魚から成魚に至るまでサイズに合わせて使い所が幅広く、価格的にもピンキリであるにせよ比較的手にとりやすい大衆魚として親しまれている。稚魚の豆アジは内臓を取る手間がいらないのでカラッと揚げて南蛮漬けやエスカベッシュにするのが使いやすいだろう。手のひらサイズのものは寿司ネタによくおすすめされる。これくらいのサイズは大型のものより身が柔らかく、脂ノリの良い個体も出てくるので、シャリとの食感バランスもちょうど良いためだ。

おすすめする料理としては王道のアジフライだ。これぐらいのサイズをフライにするとなかなかの食べ応えを楽しめる。タルタルやウスターでもいいが、梅しそだれ、トマトとバジルなどで変化をつけるのも楽しい。

この先訪れる憂鬱な季節、梅雨において旬を迎える魚もいる。その中で今回はイサキをご紹介したい。魚屋、または鮮魚の品揃えがいいスーパーで「刺身用」「活け締め」と書かれていたら試しに買ってみてほしい。

イサキは皮と身の間に旨みがあるので皮は引かず、皮目を湯霜にして造りにするのがおすすめだ。鱗を引いたおろし身の身と皮両面に薄塩を振って冷蔵庫に入れ30分ほど脱水したら出てきたドリップを拭き取り、皮を上にしてザルの上に置いたらキッチンペーパーを被せ、100度より低い80度ぐらいのお湯少しずつ量をゆっくりかけていくと過度な身の反り返りを防ぐことができる。その後、身に火が通り過ぎないよう、すぐに氷水に落とすか、バットに置き、氷水を入れたポリ袋を皮の面に上から乗せて急速冷凍に入れるのが良いだろう。個人的には水に落とすと風味が抜けるという点を考慮し、後者の方法を取る場合が多い。刺身醤油よりも、もみじおろしとポン酢、面倒なら九州の甘い醤油で食べるのがおすすめである。

湯霜ではなく、ガスバーナーで炙る焼き霜の手段を取るのであれば、香ばしさを楽しむため、酢橘を絞って塩で食べるのも美味しい。

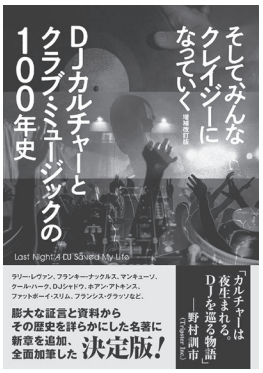
また、アジは煮付けには向かないが、イサキは抜群にうまいので、加熱用しか売ってない場合、あるいはお造りに飽きた場合の選択肢としておすすめしたい。

---

column

読書案内

Itaru Wakui



『そして、みんなクレイジーになっていく』（ビル・ブルースター＆フランク・ブロートン著／島田陽子訳、プロデュース・センター出版局、2003年）という、品切重版未定でしばらくずっと古書価が高騰の一途をたどっていた本のことをpress collective vol.38（2015年）に書いた文章でとりあげたのですが、その本がこのたび増補改訂されてDU BOOKSからあらためて刊行されたのを知りさっそく手に入れました。なお、「その記事が読みたいわ」とお思いになられたあなたはcollectiveのウェブサイトをチェックしてください。なんと！過去のpress collectiveがぜんぶ読めますよ。

さてこの本、原著タイトルは*Last Night A DJ Saved My Life: The history of the Disk Jockey*といいます。Indeepの名曲からの拝借ですね。もともと分厚い本でして初版で600ページを超えていたのが増補改訂版ではさらにヴォリュームアップし800ページにもなりました。しかも2段組み。これを鈍器本というのでしょう。ではどのように増補改訂されたのか、もくじを並べてみます。

〈初版〉
1 序説／2 始まり（ラジオ）／3 始まり（クラブ）／4 ノーザンソウル／5 レゲエ／6 ディスコ／7ディスコ2／8 ヒップホップ／9 ヒップホップ2／10 ガラージ／11 ハウス／12 テクノ／13 ハイエナジー／14 アーティストとしてのDJ／15 アウトローとしてのDJ／16 スーパースターのDJ

〈増補改訂版〉
1 始まり、ラジオ／2 始まり、クラブ／3 ノーザンソウル／4 レゲエ／5 ディスコのルーツ／6 ディスコ／7 ハイエナジー／8 ヒップホップのルーツ／9 ヒップホップ／10 USガラージ／11 ハウス／12 テクノ／13 バレアリック／14 ジャズ・ファンク／15 アシッド・ハウス／16 UKベース／17 アーティスト／18 アウトロー／19 女性DJ／20 スーパースター／21 売り渡した？

13・14・15・16あたりが増補されたようです。21の「売り渡した？」という章題も気になります。誕生時にはアンダーグラウンドでマイナーだったDJですが、たとえばTomorrowlandが40万人もの集客を誇るようにもはやアンダーグラウンドでもマイナーでもなくなったということなのでしょう。というわけで、購入した本についてその内容ではなくいわば外堀のハナシばかりしてきたのは、お察しの通りまだ読めていないからです。でもこうしてもくじを並べてみたことで増補改訂したところがよくわかりましたのでまずはそのあたりから手をつけようかなと思いま〜す。

---

music review

how i make a pattern with the same 6 tracks and 6 notes on elektron model:cycles. / epow6oow

collectiveへお越しいただいた皆さん、こんにちは！KMAです。今回は当日の参加はお休みですが、press collectiveだけでも参加させてください！

最近Youtubeで良かった音源（動画）があります。model: cyclesという機材を使ったトラック作りの様子を収めた20分弱の動画です。そこで作ってる曲がシンプルでとっても心地いいループサウンドで、ずっと聴いていられるんです。動画では6トラックに同じフレーズを打ち込んだものをループ再生しながら、1トラックずつ変化を加えてリアルタイムで曲にしていく操作過程が記録されていて興味深いです。自分は考えたこともない曲の作り方で斬新だなと思い、真似してみたくなりました。この方の他の動画もいい曲が多いのでよかったらBGMに聴いてみてください。それではまた！

（KMA a.k.a. kengomatsui）

https://www.youtube.com/watch?v=3DZQ_j3d1Z4